

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
4 5 9	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Effect of transdermal nicotine replacement on alcohol responses and alcohol self-administration. アルコール応答とアルコール自発投与に対する経皮的ニコチン置換療法の効果	
執筆者	
McKee SA, O'Malley SS, Shi J, Mase T, Krishnan-Sarin S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Psychopharmacology (Berl). 196(2): 189-200 (2008)	
キーワード	
アルコール、飲酒、経皮的ニコチン置換療法、アルコール依存症	
要 旨	
<p>原理： ニコチン置換療法は通常、重度飲酒喫煙者における喫煙の治療に用いられる。しかし、アルコールとアルコール飲酒行動に対する自覚的、生理的応答に関するニコチン置換療法の効果を検討した報告は殆どない。</p> <p>目的： この被験者間二重盲検研究の目的は、経皮的ニコチン置換療法 (0 mg 対 21 mg/日) が低用量の初回飲酒刺激とそれに続く自由な飲酒行動に対する応答を変化させるかどうか検討することである。</p> <p>方法： 被験者 (19 人) は日常的な喫煙者であり、アルコールへの欲求に対して治療を行っていないアルコール非依存重度飲酒者である。経皮的なニコチンパッチを適用して 6 時間後、刺激飲酒 (血中アルコールレベルを 0.03 g/dL まで上昇させる飲酒) に対する自覚的で生理的な応答について評価した。これに続いて、被験者は 8 回の追加飲酒 (それぞれの飲酒で血中アルコール濃度が 0.015 g/dL まで上昇するアルコール量) か、あるいは飲酒しないことへの金銭的な見返りを選択できる 2 時間の自発的アルコール投与期間が設定された。</p> <p>結果： ニコチンパッチ適用 6 時間後、対照と比べて、禁断症状から解放されることに関連したタバコへの欲求は減少し、収縮期血圧と心拍数は増加した。初回飲酒刺激に対する被験者のアルコール中毒応答は 6 時間のニコチン欠乏状態 (すなわち対照パッチ群) と比べてニコチンパッチ適用群で減弱した。ニコチンパッチ群の被験者は、自発的アルコール投与期間での飲酒開始時間が延長し、結果的により少量のアルコール飲酒に留まった。</p> <p>結論： 重度飲酒者で、経皮的ニコチン置換療法は緩和なニコチン欠乏状態と比較して自発的で生理的なアルコール応答を抑制し、飲酒の開始を遅延する。重度飲酒喫煙者において、経皮的ニコチン置換療法はアルコールに対する欲求を軽減することで有効と考えられる。</p>	